

日本都市学会第 69 回大会開催のお知らせ

1. 開催概要

開催日：2022 年 10 月 28 日（金）・29 日（土）・30 日（日）

開催地：愛知県名古屋市

主催：日本都市学会、中部都市学会

後援：名古屋市

会場：名古屋学院大学名古屋キャンパス しろとり 翼館（名古屋市熱田区熱田西町 1-25）
名古屋市営地下鉄名港線日比野駅・同名城線西高蔵駅 下車徒歩 10 数分

2. 大会テーマ 「グローバル社会における都市の脆弱性と“新常态”の模索」

3. スケジュール

※時間については変更になる場合がありますので、後日学会ホームページ「2022 年度大会特設サイト」で公開されるプログラムでご確認ください。

10 月 28 日（金）

14：00～ エクスカーション（3 コース、定員：各コース 10 名程度、参加費無料）

※申し込みは先着順とし、定員に達した場合には、第 2、第 3 希望のコースで受けをさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

A：熱田宿・白鳥貯木場コース（地下鉄伝馬町駅集合、約 2 時間）

江戸期までの熱田は、熱田神宮、宮宿を中心とした第三次産業都市であった。しかし、明治中期以降急速に工業化がすすみ、時計、車両、航空機などを中心に第二次産業都市に向かい、戦時中には一大軍需産業基地を形成した。その要因として、名古屋開府の際に設置された白鳥の貯木場の影響が大きい。そのほかに、鉄道、道路、運河、港湾という都市インフラの整備が明治期この地域に集中的に実施されたことによる。このコースでは、宮宿の歴史的な遺跡、魚市場跡などを視察し、戦跡、白鳥の歴史館（貯木場）の見学を含めて「ものづくり愛知」の原点を探る。

<主な見学先> 東海道宮宿跡、七里の渡し跡、魚市場跡、白鳥貯木場跡、白鳥の歴史館など

B：円頓寺・四間道コース（JR 名古屋駅集合、約 2 時間）

このエリアは名古屋駅と名古屋城の中間に位置し、近年変貌著しいエリアとして注目されている。堀川沿いの物流拠点、円頓寺等の門前町として商家が軒を連ねていた。1700 年には元禄の大火で焼け落ちたため、三間幅を四間道路に拡張して、土壁の蔵が並ぶ「四間道」が形成された。戦後、名古屋駅周辺の開発に伴い 1960 年代から一気に衰退したが、2005 年以降に長屋等を改修し新規店舗を導入したり、新たなイベントを開催したりすることで活気を取り戻してきた。最近では改修長屋に新しい飲食店や物販店が次々と開業し、ここ 10 年で 50 軒近くに達している。その変貌ぶりをまち歩きで確認していく。

<主な見学先> なごのキャンパス（小学校の有効活用）、円頓寺商店街、五条橋・堀川、四間道（土蔵景観）、長屋改造店舗群など

C：大須界限コース（地下鉄上前津駅集合、約2時間）

中区大須の歴史は、大須観音や万松寺を中心にした南寺町の門前町として始まった。鎌倉時代末期に現在の岐阜県羽島市桑原大須に建立された大須観音が、「清須越」が一段落した慶長17（1612）年に徳川家康の命で現在地に移転したころの大須は、森の中に点々と寺社があるだけの寂しいところであった。それがいつしか、南寺町を南北に貫く美濃路（本町通）沿いが門前町となり、江戸時代の徳川宗春治世では遊廓が建設され、明治から大正時代にかけては映画館の街としても賑わいをみせた。旭遊廓が中村に移転したあとは、名古屋でもいちやく商店街のまちづくりが行われ、戦後も古着や電気・オタクの街など雑多な要素を呑み込みながら発展してきたのが、庶民の下町・大須である。このコースでは、大須の400年史を感じるフィールドワークを予定してる。

<主な見学先> 万松寺・本願寺名古屋別院・大須観音・那古野山公園・大須演芸場・七ツ寺（共同スタジオ）・第2アメ横など

18：00～ 理事会（会場：名古屋金山ホテル2階会議室）

10月29日（土）

09：30～ 研究発表Ⅰ（4会場）

13：00～ 開会挨拶 日本都市学会会長 浦野正樹
中部都市学会会長 井澤知旦

13：10～ 特別講演 名古屋市副市長 中田英雄 氏
「アジア競技大会・リニア中央新幹線を契機としたまちづくり（仮）」

13：40～ 基調講演 大阪経済法科大学経済学部教授 米山秀隆 氏
「アフターコロナの都市と住まい」

14：40～ 休憩

14：50～ パネルディスカッション

「グローバル社会における都市の脆弱性と“新常态”の模索」（仮）

パネリスト：後藤 誠一 氏 岐阜大学助教 [働き方]

米山 秀隆 氏 （※前出）[住まい方]

倉員 愛子 氏 株式会社JTB 教育旅行課担当課長 [観光の呼び込み方]

田中 晃代 氏 近畿大学教授 [都市のつくり方]

コーディネーター：三井 栄 氏 岐阜大学教授

16：40～ 日本都市学会賞授賞式

17：10～ 日本都市学会総会

18：00～ 懇親会（会場：未定）

10月30日（日）

09：00～ 研究発表Ⅱ（4会場）

4. 研究発表の募集

(1) 申込資格

発表申込者は会員（入会手続き中のものを含む）に限ります。共同発表の場合、申込フォームに共同発表者全員の氏名、所属を入力してください。口頭発表は一人一回限りとします。なお、発表申込後の共同発表者の変更は認められません。また、共同発表者の中に非会員が含まれていても構いませんが、『日本都市学会年報』に投稿される際には、著者全員が会員である必要があります。

(2) 申込方法

研究発表を希望される方は、以下のURLまたはQRコードからアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。締め切りは**8月31日(水) [期限厳守]**とします。受付期限内であれば、申込内容を変更することは可能です。期限後の変更は、事務局まで直接メールでご連絡ください。

入力フォームにある「大会テーマ分科会」とは大会テーマに関連する発表を集めた分科会、「自由テーマ分科会」とはそれ以外の分科会です。申込者数に偏りが生じた場合には事務局で調整し、希望通りの分科会とはならない場合もありますので、ご了承ください。また、発表日時については、分科会を構成する都合上、希望はお受けできません。プログラムが確定しましたら、9月下旬以降に学会ホームページで公開しますので、ご確認ください。

<参加申し込み先> <https://forms.gle/GXtjiuKHA8QZzri68>



(3) 発表要旨の執筆要領

- ①A4（縦）サイズ、横書きで2枚以内。
- ②余白は上下25mm、左右20mmとし、文字数は横23字×縦45字、2段組、2,070字/頁。文字は10ポイント、明朝体。見出しはゴシック。
- ③1頁目の上部7行分は1段組とし、タイトル、所属、氏名に使用。2行目にタイトル（14ポイント、ゴシック、中央揃え）、6行目に所属・氏名（10ポイント、ゴシック、右揃え）、本文は8行目から2段組で。年報掲載論文と同じスタイルです。
- ④そのまま印刷原稿としますので、図表は見やすく貼り付けてください。図のタイトルは図の下部に、表のタイトルは表の上部に、それぞれゴシック、中央揃え、モノクロ印刷で（Web掲載はカラー）。
- ⑤要旨の提出期限は**9月15日(木) [期限厳守]**で、送り先は8の「発表要旨送付先」まで。メールによるWordファイルとPDFファイルでの提出を原則とします。なお、お問い合わせがある場合も8の「大会に関する問い合わせ先」までお願いします。

5. 大会参加申し込み

研究発表をしない方も、シンポジウムやエクスカージョンに参加される方は、以下のURLまたはQRコードからアクセスし、必要事項を入力して**9月15日(木) [期限厳守]**までにお申し込みください。

<参加申し込み先> <https://forms.gle/GXtjiuKHA8QZzri68>



6. 大会プログラム・発表要旨集の配布

大会プログラムについては、9月下旬に日本都市学会ホームページ [2022 年度大会特設サイト] に掲載します。印刷物は配布しませんので、学会 HP にてご確認ください。

また、発表要旨についても [2022 年度大会特設サイト] に掲載します。必要に応じて各自でダウンロードするなどしてご持参ください。なお、紙媒体の「発表要旨集」（簡易印刷物）を必要とされる方は、有償（1,000 円）で当日配布させていただきますので、大会参加申込の際にご予約ください。

7. 大会参加費等の支払方法

大会参加費（1,500 円）ならびに発表要旨集代（1,000 円）については、事前納入を原則とします。前納者に対しては大会参加費を [事前価格 1,000 円] にて徴収させていただきます。受付業務の簡略化にご協力ください。

大会参加費等のお支払いは銀行振込でお願いします。指定された銀行口座（三菱 UFJ 銀行高蔵寺支店 普通口座 0085845 中部都市学会）へ大会参加費（事前価格）1,000 円を **10 月 7 日（金）[期限厳守]**までにお振込みください。また、紙媒体の「発表要旨集」をご希望の方は発表要旨集代（1,000 円）と合わせて 2,000 円をお振込みください。発表要旨集を複数冊申し込まれた場合は、その分の金額を加算してお振込みください。その際、申込完了メールに記載されている「受付番号」を振込人の氏名の前にご記入ください。振込手数料は各自でご負担願います。なお、納入後の大会参加費、発表要旨集代の返金には応じることができかねますので、ご注意ください。

参加申込の方法や参加費の支払い方法等について、ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

8. 大会に関する問い合わせ先・発表要旨送付先

〒487-8501 春日井市松本町1200 中部大学人文学部大塚研究室内

中部都市学会事務局（担当：大塚俊幸）

e-mail : chubutoshi@isc.chubu.ac.jp TEL : 0568-51-9107 FAX : 0568-52-0622

（電話は不在の場合が多いため、できるだけメールで問い合わせをお願いいたします。）

9. 宿泊案内

名古屋市内の宿泊施設をご利用ください。大会会場の最寄り駅は名古屋市営地下鉄名港線日比野駅と同名城線西高蔵駅です。名古屋駅から約 20 分、名古屋都心（地下鉄栄駅）から約 12 分です。

10. 弁当販売、懇親会について

10 月 29 日（土）の昼食の弁当販売ならびに懇親会については、大会への参加を申し込みいただいた皆様宛てに、後日、改めてメールにてご案内いたします。

以上

「グローバル社会における都市の脆弱性と“新常态”の模索」

日本都市学会会長 浦野 正樹

中部都市学会会長 井澤 知且

都市は諸機能が高密度に集積し、多様な人・物・情報等が行き交う場所である。人口減少下の日本では少子高齢化に対応するため、コンパクトな市街地を形成し、それらを公共交通・地域交通でネットワークしていく施策が打ち出されてきた。また同時に、観光客、とくに海外からの観光客を惹きつけて都市の活性化を図る動き、いわゆるインバウンドの促進が図られてきた。

しかし、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症が拡大し、今日の都市の脆弱性を露呈した。拡大防止のために、人が集まっている場所には行くな、不特定が多く利用する空間に入るな、近距離で対面するな、と密集・密閉・密接の3密を避けることが推奨された。そのため、非常事態宣言下では高密度な都心はゴーストタウン化し、郊外と都心を結ぶ鉄道もガラガラに空いており、飲食店も臨時閉店に追い込まれていった。これまでの都市政策の流れとは真逆な対応が求められたのである。6度にわたる感染拡大の波と4度の緊急事態宣言発出の結果、大きな経済的ダメージがもたらされ、人々は疲弊している今日である。

新型コロナ禍で移動や接客に制約がかかると、住宅やオフィス、店舗やエンターテインメントなどのあり方も変わる。テレワークが推奨され新常态化すると、都心型オフィスの役割が見直され、居住地選択の幅も拡大する。サテライトオフィスやコワーキングスペースの需要が拡大し、ステイホーム（在宅勤務）を余儀なくされた人々は居住環境がよく広くて安い住宅を選択するようになる。飲食も来客より配達、エンターテインメントも集客より配信のウエイトを拡大させている。しかし、東京脱出や地方移住などが喧伝されているが、その流れは本流になるほどの量ではない。ベッドタウンであった居住地はステイホームすることで地域コミュニティが強固になり、暮らしの拠点になっていく。散策道や自転車道、公園や緑地の拡充が求められ、公共空間の価値は一層高まっていくのではないかと。都市構造を変えるインパクトがもたらされるのではないかと。

地方創生に向けた地域の活性化は大きな課題であるが、インバウンド観光に期待していた地方都市は多い。しかしパンデミックによってインバウンドは壊滅となり、過度な依存はリスクが大きいことが明らかとなる。国内客重視から中長期的にインバウンドミックスとか、マイクロツーリズムやオンライン観光の模索が始まっている。

このようなグローバル社会における都市の脆弱性を明らかにしつつ、2年半以上のコロナ禍の中で蓄積した経験値や研究蓄積をもとに、それに対処できる新しい働き方と住まい方、都市機能の配置の仕方について“新常态（ニューノーマル）”を受け止める都市論を構築することが喫緊の課題である。

日本都市学会は他学会とは異なり、都市にかかわる多様な専門分野の人々が集まる学際的な学会であるので、都市社会や都市経済、都市計画や都市政策、都市地理や都市情報など、多様なアプローチが可能であり、それらの成果の総合化することが可能となる。

その意味において本学会テーマは時宜を得た格好のテーマである。